

●産業機械の新規/改造計画の際は 導入/稼働後に 必ず発生するメンテ
作業に関する情報入手が不可欠！「整備ノウハウ・ランニングコスト・・・」
豊かな実務経験と 確かな実績を誇る 熟練スタッフによる
弊社独自のアドバイスは 如何でしょうか！●

□現場担当者の悩み事相談 フリーダイアルからの参考情報・・・□

工場内安全点検/整備作業関連従事・熟練スタッフからの提案・・・

- 近代化された工場内でも メンテに関するベテラン従事者の育成が おろそかになったり 経験者の減少
している作業環境下で 産業機械の長期安定稼働、安全優先を維持する事に対して 不安が残る
- 特に周辺機器に対するメンテナンスノウハウの取得と リアルタイムの情報共有が 非常に大切である事
- 産業機械や 生産物は 全て“**生き物**”であるとの 再認識が ポイント「**相性の問題？**」
- “**各種、高性能センサー**”でも 定期的なメンテナンス作業が必要 むしろ “**人間の第六感**”が優秀か？
- 産業機械は “**周辺機器、部品の集合体**”であり これらの商品知識を 常に習得する心構えが基本
- 産業機械の設置環境への配慮「新装置の”**くせ**”を把握し 気候・風土、物流、現場担当者の資質まで」
- 生産物の目的、特徴の違いによる産業機械メーカーの選別と周辺機器、部品の特徴「**相性の違い**」を
より確実に熟知しているメーカーを選択する事 “**なんでも屋**”は時代遅れ 品質管理にはマイナス
- “**安物買いの銭失い**”を 実戦しないように 特に付加価値の高い製品を製造させる装置には
それ相当の予算を計上する「**変にケチらない事**」 購入価格交渉に役立つ情報は やがて稼働後に
発生する ランニングコスト「メンテ作業費用」に 転嫁？ 発注側は メーカー側をリードする姿勢が
大切であり 周辺機器への知識が不足がちの場合 メーカー側の独壇場か？「安易な妥協は許さない」

●産業機械メーカー、●周辺機器メーカー、●ユーザー 三社間の コーディネーター としての役割

この周辺機器、部品は ほとんど 汎用品が多く 装置メーカーが 型式等を選択し、取付しております
最近では これらの汎用品に工夫、付加価値を高め ハイテク部品との コラボ採用する事も 目立ちます
しかしながら 一時的には デザインや性能等は優秀でも 長期稼働中における 対摩耗、対寿命に対する
懸念や 不具合発生時の復元費用や定期メンテナンス費用等まで 購入打合せ時に 十分検討したか？
果たして周辺機器は 実機に取付、長期間のフィールドテスト「耐久テスト」を 実施させているか？

＜設備購入費用だけに 注視し 稼働後のランニングコストまで 検討していない傾向が強い＞

また これら周辺機器には その装置に対する それぞれの“**相性**”がありマイナス面の相乗効果に移行すると
想定外の 短期トラブルに 結びつくケースも 多々発生しております「部品価格が 数千円のものでも」
必ず これらの商品には 適切な メンテナンスが 必要である事を自覚し 採用責任者や 現場担当者は
導入事前に 商品知識を 十分熟知、理解したうえで 採用する事が より好ましいといえます
産業機械メーカー側は 従来の製作パターンを基本にして 近代的なハイテク部品等を併用し、装置開発を
めざしながら 新型を デビューさせておりますが それだけでは 不十分であります 肝心なのは
全体の装置に含まれる 周辺機器、部品の 特徴を 把握して 稼働後の不具合発生確率を
予想する事が これからの装置導入の際は 重要である事を 付記させて戴きます
その装置全体の機能、性能を発揮させるにはどうしても長期安定型周辺機器の選択が賢明 これらの貴重な
情報を 提供する事が出来る ベテランスタッフは 時代の推移と ともに 数少なく、限られてきております
弊社では 現場での整備・修理作業経験を持つ 熟練スタッフを育成し 周辺機器の安全点検作業や
作業環境のアドバイザーとして「企業リストラ後 設立 16年目」特に 各企業の若い現場担当者との
対話・交流を含め 周辺機器の つまらない原因で 不具合発生防止に協力しあい 今日に 至っております

どうか 装置・機器導入計画事前に 以上の情報等を さらに 確実に ご理解いただく為に 弊社の
□ 熟練スタッフの豊富な意見を 参考にしてみては 如何でしょうか！ ぜひお問い合わせください □

装置メーカー担当者は 装置の事には詳しいが周辺機器への知識が甘いのではないかとの意見が
弊社の悩み事・相談窓口で 舞い込みます 汎用品をそのまま採用し 相性の問題や メンテナンス作業内容等
までは 正直 フォローしかねていると思われます 不具合が 発生すれば 周辺機器メーカーに依頼したり
不具合の原因に 疑問を抱かず 簡単に 部品交換だけで処理してしまう事が 多いのが 現実であります
このような 原因を把握品で不具合処理をしてしまうと 忘れたころに 再発するケースも経験しております
結局は 初期の設備投資が 安い印象があっても ランニングコスト「部品代だけではすませない」が発生し
装置を長期間稼働させる 維持費の高騰に直結してしまう事に 目を見張る大切さを 力説致します
商品知識の把握作業を積極的に導入する必要性を 提案致します
このような際に 装置全体の知識を把握し 豊富な周辺機器の整備・修理経験を体得している弊社の熟練スタッフ

商品知識の把握作業を すべきであります 実際 現場で従事して 豊富な整備・修理の実績を積んだ
確実な実務経験をつなだベテランスタッフのアドバイスが 重要と考えてます

十分な 長期安定稼働「ノーメンテナンスも考慮」を備えた 周辺機器なのかどうか まで
採用前に 十分、検討する必要が 最近 ささやかれております

また 装置メーカー側にも これら周辺機器に対する 知識を習得して 的確な 採用時におけるアドバイスが出来る
ベテランの存在が 少なくなっているのが 実情です

これらの商品知識の理解「隙間、ギャップ」が 稼働後の短期トラブルの「むだ、むり、むら」原因にも結びついていることが
弊社の ●現場担当者からの 悩み相談窓口 フリーダイヤルを通じた 自称分析の結果 判明されてきてます

新規装置の導入や 改造等に関する計画には

- (A) その装置に従事する現場担当者の意見を反映させる為 自由に参画させる事「オペレーターの立場がポイント」
- (B) 汎用品 特に部品メーカーからの購入品には 十分 商品知識を理解し 採用をする事「装置や他の部品との相性
- (C) 核となる装置と新しく採用する部品と さらにそれら部品同士間との相性をシュミレーションする事「トラブル予知」
- (D) 全体の装置を設置する場合 稼働後の不具合等メンテナンスに対する考え方を 検討をする事

「例： ▼海外進出なのか 国内なのか？」

「例： ▼自然環境の把握 地盤沈下 気温 湿度 空気対流の度合い 冷却水/工場排水関連

「例： ▼工業団地、従来の工場内に設置するのか！

「例： ▼物流関連 原料の搬入 製造物の出荷 産業廃棄物/特別産業廃棄物処理関連…

「例： ▼装置メーカーと 部品メーカーと エンドユーザ 三者の 情報共有の必要性を理解する事

お互い 売りっぱなしは 不具合発生時の責任転嫁

以上の 事案の中で 弊社が お役にたてる範囲は「主な周辺機器の不具合発生時に 対応した 豊富な実務経験と
確実な対処実績からの ノウハウを もとに」 周辺機器の採用時や 実際 不具合が 発生した場合のアドバイスが
装置メーカーや 部品メーカー担当者と 協力しながら 敏速に対応出来る アフターサービスの 充実であります
全ての 採用される周辺機器の知識を 共有しているわけではありません